

論文執筆のための参考資料

〈タイトル〉

誰を対象に何を明らかにしようとした研究なのかがわかるようなタイトルをつける。

〈抄録〉

研究デザイン、対象者、研究の実施場所、分析方法、主要な結果、考察のすべてを含める。量的研究の場合は、主要なアウトカムとなる変数、主要な要因となる変数、交絡因子についてできる限り明示する。英語抄録については、必ず英文校正を済ませる。

〈キーワード〉

論文の内容を的確に示すキーワードをつける。Medical Subject Headings (MeSH)などを参考に、公表後に検索されることを意識して選択する。

〈緒言/背景〉

自らの研究課題の重要性（問題が蔓延している程度、患者・家族への影響など）、および同様の研究課題に対する先行研究を踏まえた自らの研究の必要性について説明する。必要があれば、自らの研究が依拠する理論的枠組みについての説明を含める。

〈研究目的〉

この研究が何を明らかにすることを目的に行われたのかについて文章で表現する。（例「本研究は、…によって…を明らかにすることを目的とした。」）

研究の意義と混同しないこと。研究目的をより具体的にするために研究仮説についても示してよい。

〈概念図（必要時）〉

自らの研究で注目している変数間の関係についての仮説を図示する。注目している変数とは、原因となる変数、それに影響を受けた結果の変数、両者の因果関係を考える上で考慮すべき変数（交絡因子など）が含まれる。

〈用語の定義（必要時）〉

研究で扱う概念のうち、著者と読者の共通理解が得られない可能性のあるものすべてについて、その研究の中で意味することを明確に説明する。

〈研究方法〉

研究目的との整合性に注意し、第三者が再現できるように、いつ、どこで、だれが、何を、どのように行ったのかについて、可能な限り詳細かつ具体的に説明する。

1) 対象者

選定基準と除外基準、および実際の選定手順を示す。選定基準には、対象者のいる場の条件を必ず含める（どのような地域か、どのぐらいの規模の施設か、入院か外来か、など）。各基準は、形容詞や形容動詞ではなく数値などを用いて具体的に表現する。

2) データ収集方法

質問紙法の場合は、質問項目の作成過程、尺度の使用法や性能（信頼性、妥当性など）、データ収集の手順（質問紙の配布・記入・回収の方法、測定の時期や頻度、測定の間隔とその根拠）について記述する。質問項目は測定したい概念の定義との整合性に注意する。面接法の場合は、面接の内容、回数、タイミング、面接者の人数について説明する。

3) 介入方法（該当する場合）

介入内容の記述には、具体的な目標や理論的枠組みを含める。また実施手順の詳細として、実施場所、回数、間隔、時期、形態（個別/集団）、実施者（人数、訓練状況）、実施者 1 人あたりの受け持ち対象者数、参加報酬の有無について記述する。計画した手順と実施状況の両方を報告する場合、実施状況については結果に記載する。

4) 分析方法

量的研究では、用いた統計手法について、分析目的、分析対象となる変数について具体的に示す（例「A の B に対する影響を明らかにするため、Y を従属変数、X を説明変数とした重回帰分析を行った。」）自信がなければ投稿前に医療系の統計手法の専門家にチェックを受ける。

質的研究では、どのように分析の妥当性を確保したかについて具体的に説明する。複数の研究者が関わる場合は、それぞれの役割分担を明確にし、意見集約の方法、スーパーバイザーの専門分野についても記述する。

5) 倫理的配慮

対象者からの同意取得の方法，および公的な倫理委員会等の承認を受けた場合は明示する。

〈結果〉

研究方法に即して提示する。

あくまでも結果のみを示し，考察との混同を避ける。

図表と本文の数値を一致させる。

〈考察〉

研究目的との整合性に注意し，同様の目的で行われた先行研究の結果と比較しながら，自らの結果を解釈する。結果の繰り返しや，結果と無関係な主張は避ける。

研究の限界や課題を明記する。

糖尿病教育・看護分野への貢献，示唆を明示する。そのために，「糖尿病教育（あるいは糖尿病看護）への示唆」などのセクションを設けてもよい。

〈引用文献〉

投稿規定に沿った記載方法を厳守する。

2012年8月1日改訂（第4期編集委員会）

2021年9月26日改訂（第11期編集委員会）